

BIBLE + MESSAGE

私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。
(Iヨハネ5章10節)

上記の聖書のことばは、神の愛がどのような愛であるかを、とてもわかりやすく教えています。それは「先行する愛」であるということです。人間の愛は多くの場合「ギブアンドテイク」です。自分のことを大切にしてくれる人を愛することはできます。しかし、自分のことを嫌っている人を愛するということは、ほとんどないでしょう。言うなれば、人間の愛は「相手によって左右される愛」なのです。

一方、神の愛は相手によりません。相手がどのような人であったとしても、神はまず先に愛を示してくださっているのです。その愛は、御子イエスをこの世界に遣わすことによって明らかにされています。本来、私たち人間が受けるはずであった罪のさばきを、イエス・キリストが身代わりとなって受けてくださったのです。神の愛は相手を選びません。問題は人がこの愛を受け入れるか、拒むかにあるのです。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アピタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

【日曜学校】日曜：午前10時～10時45分 【礼拝】日曜：午前11時～12時半
【午後の集会】日曜：午後3時～4時半 【聖書研究会】木曜：19時半～21時

聖書を読んだ日本人

星野富弘さんの作品を見られたことはありますか。温かみのある花の絵とともに、感性豊かで、独創的な詩が綴られています。そこには人の心を動かす、不思議な力があるように思います。

星野富弘は群馬県に生まれました。彼は大学を卒業した後、中学校の体育教師になります。ところが、赴任して二か月目のある日、空中回転の模範演技をした際、着地に失敗し、首の頸椎を骨折してしまふのです。その結果、彼の身体は首から下の部分がまったく動かなくなってしまうました。

病院に入院した星野は、大きな絶望のなかにいました。この先、身体が直る見込みがなかったからです。つい数か月前までは、体育

教師として希望にみち溢れた人生を歩んでいたのに…。

そのような絶望のなかにあった彼のもとに、一人のクリスチャンが見舞いに来しました。その人は星野の大学の先輩で、教会の牧師をしていたのです。彼はひとつの聖書のことばを開きました。それは、「患難は忍耐を生み出し、忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出す」ということばでした。そのとき星野は「今の苦しみは希望につながるのか。聖書にはこういうことが書いてあるのか」と思ったそうです。以来、彼は続けて聖書を読むようになり、やがて信仰を持つに至るのです。

クリスチャンとなった星野は、入院生活の間に、口にくわえた筆



星野 富弘
(ほしの とみひろ)
1946年～



星野富弘氏の作品

で水彩画を書き始め、そこに詩を添えるようになりました。病院を退院した後は故郷に帰り、創作活動を続けていきました。やがて星野の作品は、多くの人々の目に留まるようになり、今では日本だけでなく、ハワイやニューヨークでも展示会が開催されています。彼の作品はなぜ、私たちの心に大きな感動を与えるのでしょうか。それは苦しみのなかでも消えることのない確かな希望がそこに輝いているからなのだと思います。